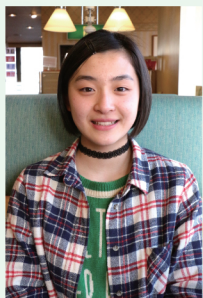


待ってね私のふるさと

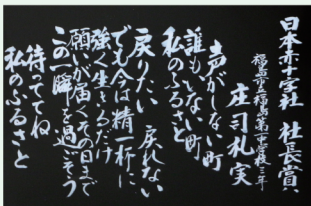
庄司礼実さん
(前田・八木和)

4月からは高校生。小さいとこの世話が楽しくて、将来は幼稚園教諭が保育士を目指そうと考えています。「好きなことを夢にしたい」

HOPES
ホープス セカンド
2nd

日本赤十字社福島県支部が毎年作品を募集している「青少年赤十字詩・100文字提案」で、昨年、庄司礼実さんの詩が、最高賞の日本赤十字社長賞に輝きました。

礼実さんは、震災直後、家族と共に大阪の親戚宅に身を寄せました。その後小学5年生の時に村の小学校に戻り、避難する福島市内の中学校に進学。入学当初は毎日泣きな



さん
日本
赤十字社
福島県支部
から村へ
寄贈されま
した

がら帰宅していたと、母親の美郷さんは振り返ります。その中学校でも、家族の励ましを受けながら通学を続け、所属したバレエ部では部長も務めて、この3月に卒業しました。

詩に書かれた「ふるさと」について礼実さんに聞くと、「私のふるさは飯館です。村の自然の、あのどかな感じが好きなんです」と微笑みました。走ったり自転車に乗ったり大声を出したり、自由のびのびと過ごせた心地よさを、今も大切に記憶しています。詩の後半に書かれた「願い」とは、「飯館に帰りたい」という礼実さんの願い。「急には無理でも、ちよんとすつ戻るのが増えていく」といって、避難指示が解除となった村を見守ります。

避難による転校という経験ですべて受け止めながら、礼実さんはまっすぐふるさとを語ります。その純粋な思いが、この詩を読む人の胸を打つでしょう。

〈編集後記〉

●3月の卒業式取材。大きく巣立つ子どもたちの姿をカメラ越しに見つめました。仮設の学校でも立派な姿を見せてくれた「いたで子」の紹介している。避難先で見つけた大切なもの「写真コンラスト」ご応募ありがとうございました。大切なものは人それぞれで、見ている私たちの心も併せて包んでくれます。村民の皆さんが4月から新生活でも、大切なものがひとつ多く見つけられますように。(木嶋)

●何気なく見始めたNHK大河ドラマにはまっています。柴咲コウさん演じる主人公が、逆境に次々逆境にもひるまず挑んでいく姿、許嫁いひるみずけなどの悲恋(史実をどうドラマと思われませんが)にキドキ。劇中でのその意味を知った日々是好日!という言葉も心に染みます。(星)



the most beautiful
villages
in japan

飯館村は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。